

主な条例一部改正等

大豊町一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例

（賛成 小川智也議員、西村正尚議員・反対8）
町外に賃貸住宅を借り受けている職員の住居手当は、平成26年度3分の2、平成27年度3分の1支給し、平成28年度からは支給しない。

町外から通勤する職員の通勤手当は、町内経路に加え、町内経路を越える区間は、平成26年度3分の2、平成27年度3分の1支給し、平成28年度からは支給しない。

委員長報告に対する質疑



今井安博 議員

総務産業建設常任委員会で、大豊町一般職員の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例は、否決とする報告であったが、審査の経過と結果は。

佐藤徳治
総務産業建設常任委員長

様々な角度から賛否について活発な意見が出、議論を行った。町職員は基本的に町内に住み、過疎になった地域を支えるべきであるが、結婚等それぞれ諸事情があり転出している。本案を一律に適用するのはどうか。

今、町外在住者に手当を削減したとしても、さほど本町に転入する結果につながると思えない。それよりも町長と職員が綿密な話し合いを行い総合認識を深める中で、町内居住という思いを一つにしてい

く取り組みが重要である。

この改正によって、職員の仕事に対する意欲減退が懸念されるなどの反対意見が出た。

一方、町外在住職員には諸事情があっても、地方公務員は何か給与の原資なのかよく考え、人口減少の激しい今日、住民の関心度の高さも考慮し、可能な限り町内に居住すべきであり、本案に同意すべきであるとの意見も出た。

以上のような様々な意見が出、自由闊達な議論をした後、慎重審査を行った結果、本案は賛成少数（1人）で否決された。

討論

賛成討論



三谷幸一郎 議員

今まで職員が町外から通勤している問題点を再三再四にわたり質問してきたが、一向に減少せず逆に増加している。

職員は大災害発生時には、国道等が寸断され出勤できなくなることが懸念される。有事の際は即刻出勤し、町民の生命財産を守ることが使命である。

加えて、過疎化が進展し集落の存続が危ぶまれるため、移住により地域の活性化を図るべく空き家対策も講じている。町民の声や感情を鑑み賛成する。

反対討論

前野由和議員

条例を提案する前に、まず職員との協議がなされていない。単独協定でも当然働く人と雇用のルールが確立されなければいけない。直接に不利益を被る職員との話し合いあるいは労働組合がなければ職

果たすにはどうすればいいのか、十分熟慮して判断すべき問題であり反対する。

賛成討論



小川智也 議員

長年にわたり町外から通勤している職員の問題について議論されてきたにもかかわらず、解決に至っていないのが現状である。通勤手当は町内分

は保証、2年間の猶予期間、全職員に対し回覧メールで周知、まさに解決に向かう第一歩である。我々議員は選挙で選ばれ、町民の代表であり町外在住職員の代表ではない。職員は住民サービスが責務であり、我々議員は住民中心とした判断をするべきで、否決することは住民に対しての説明ができないため賛成する。

反対討論

重森一宗議員

賛成者の討論に同感する部分もあるが、条例制定、改正の基本は日本国憲法である。憲法では国民は平等であり、居住は自由である。町外在住者に対しての住居手当カット、通勤手当は町外区間カットというのは、法に抵触しないかを官公庁にも問い合わせをしたが明確な答えもなく、加えて裁判実例もないことから、議論する余地があり時期尚早と判断し反対する。

大豊町特別職の職員の給与に関する条例の特例に関する条例の専決処分承認

（賛成・全員）
職員の処分を受け、7月分の給料、町長7%、副

町長3%の減額措置を行った。

大豊町窓口センターの設置に関する条例の一部を改正する条例

（賛成8・反対 小川智也議員、三谷幸一郎議員）

窓口センターの取扱時間は、毎週火曜日（火曜日が休日の場合は翌日）と12月27日から1月1日までの期間を除く、毎日午前8時30分から午後5時15分までとする。



窓口センター

反対討論

三谷幸一郎議員

取扱時間を10月1日から、午後9時を午後5時15分に変更することは、住民からサービスの低下を招くという声があるので反対する。

賛成討論

渡辺則夫議員

午後5時15分から午後9時までの利用者数は、1カ月当たり2人と極めて少なく、費用対効果を考える住民からも理解が得られるものと考え賛成する。

町道の路線廃止

町道川口南工業団地2号線を企業道路として利用性を高めるため廃止。

員の過半数の代表者と協議をする必要がある。

限界集落の中で、集落に職員が一人でもいれば独居老人の見守りなど、住民からの期待も大きいことは承知しているが、町外へ嫁ぐなど様々な諸事情もあり、これを無視したかたちで一律に杓子定規に定めるのは問題である。改正により、町内在住職員と町外在住職員の間にくさびを打ち込む結果にならないかという危惧もしている。それぞれの諸条件を考慮せず一律にベナルティを掛けるような措置は良策ではなく反対する。

賛成討論

今井安博議員

条例案を否決することは、現状維持を容認することになる。過疎化が進み限界集落から消滅集落となることに危惧している。町長は「ふるさと大豊に暮らし、住民と同じ目線で地域を見、ともに行動する職員」と常に言われており、私も同感である。職員は町内で生活することが基本であり、モラルの欠如と言っても過言ではない。町民の感情として、町職員として働きなから税金も納入しないという声が絶えず聞こえてくる。町民の感情を考えたとき、この提案は当たり前のことであり賛成する。

反対討論

渡辺則夫議員

町に奉職する職員は町内に住むというモラルについては、賛成討論者と同感である。このモラルはその人の心の持ちよう、精神状態をいうわけで、町長は提案する前に職員と話し合いをするべきである。この条例を強行するとモラルハザードを引き起こしかねないと思慮する。かえってデメリットが大きくなり、職員の様々な諸事情を聞き、可能な人には本町で生活をしてもらうことが最良と考える。目的を

主な質疑

○一般会計

第2回補正予算

前野由和議員

6月議会定例会で、通院タクシー制度の見直しを議論し、検討するという答弁であったが、その結果は。

腔外科も対象にするよう事務を進めている。

渡辺則夫議員

大豊町総合ふれあいセンターの見直しの進捗状況は。

岩崎憲郎町長

住民の声を聞き、理解を得て見直す必要があるため説明資料を作成中である。

今井安博議員

集落からシカネットを張りたいという要望はあるのか。シカ・イノシシの被害が依然として続出

今井達也
住民課長

10月1日から歯科・口



防護ネットを視察する県尾崎知事（東庵谷）